

取組状況 (1)





避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備_水位警告灯の整備

河川水位警告灯を試験的に設置【高畠町・山形県・山形河川国道事務所】

～沿川住民の主体的な避難を促す～

羽越水害や近年の洪水で被害を被った高畠町和田川において、河川水位警告灯を試験的に設置しました。

高畠町が設定した「①危険水位」「②避難水位」に取り付けた「水電池」が河川水位上昇により浸水することで発電し、警告灯が点灯します。簡易かつ安価な構造であり、今後自治体が主体となって設置し、避難情報を補うものとして活用されることが期待されます。

試験運用状況	原理と構造	地元住民への説明
<p>最上川水系和田川 (東置賜郡高畠町中瀬地区)</p> <p>警告灯 (赤: 避難水位) (黄: 危険水位)</p> <p>水電池 (上段: 避難水位) (下段: 危険水位)</p>  <p>和川</p> <p>水位警告灯現地説明</p>	<p>◆設置箇所は量水標、構造物等、周囲に閃光状態が分かる場所とする。(単管パイプ程度の柱で十分。)</p>  <p>②' 赤色閃光灯が発光</p> <p>①' 黄色閃光灯が発光</p> <p>②避難水位到達 → 電池に水が入り発電</p> <p>①危険水位到達 → 電池に水が入り発電</p> <p>※当該箇所は最上川本川の背水区間である。</p>	<p>地元住民への説明 (高畠町中瀬地区防災講座)</p>  <p>“水害から身を守る”講座</p>  <p>住民の手による“防災福祉マップ”の作成</p>

取組状況 (2)

より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

市水害対応訓練 (避難訓練・水防訓練) を実施【南陽市】

～有事に備え125地区2500人が防災体制を確認～

「市水害対応訓練」を6月25日に行い、市水防団・消防職員・自主防災会等や市民の約2500人が有事に備えて防災体制を確認しました。

「避難訓練」は、前日から降り続いた大雨の影響で、河川に洪水の恐れがあるという想定のもと市内全域で実施しました。



真剣な眼差しで「積み土のう工法」を行う自主防災会



毛布と竹竿で担架を作る方法を学ぶ参加者

大雨警報、洪水警報の危険度分布提供を開始【山形地方気象台】

～気象災害から命を守るために～

気象庁では気象災害時に円滑な住民の避難行動を促すために、「危険度分布」を7月4日から提供開始しました。

危険度分布は、大雨警報や洪水警報が発表されるような重大な災害が発生するおそれがある状況で、自らの地域の危険度の高まりを把握するための情報です。

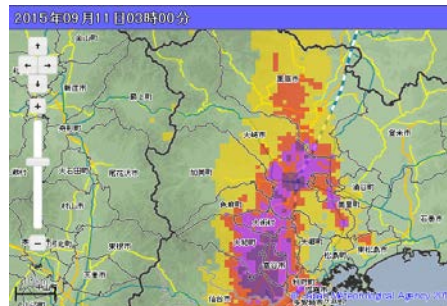
浸水想定区域など災害発生危険性が認められる場所にお住まいの方は、危険度が高まったら、命を守るために早めの避難をお願いします。

大雨警報（浸水害）の危険度分布

大雨の際に、道路や住宅への浸水が発生する可能性を5段階の色分けで地図上に表示します（1キロ四方ごとに）。

どの場所がどれくらい危険かが、視覚的に判るようにしました。この情報は10分ごとに更新され、1時間後までの危険度を見ることが出来ます。

避難などの、早めの安全行動に活用願います。

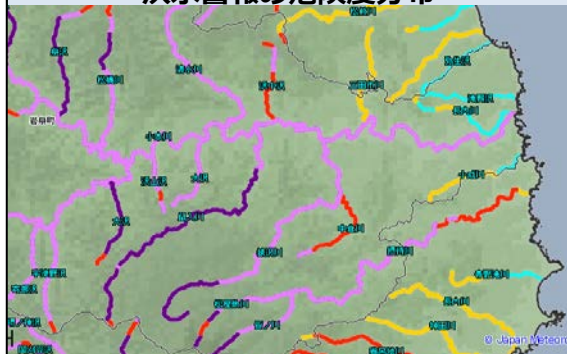


洪水警報の危険度分布

大雨により、中小河川の洪水発生危険度を河川の流路に沿って5段階の色分けで地図上に表示します。河川ごとに色分けされますので、どの河川がどれくらい危険かが視覚的に判ります。この情報も10分ごとに更新され、3時間後までの危険度を見ることが出来ます。

実際に河川の水位が上昇するより前の早い段階から、早めの避難を心がけることが大切です。

平成28年台風第10号：岩手県岩泉町 洪水警報の危険度分布



危険度分布



気象庁ホームページ
で見れます

危険度分布の
5段階色分け

編集後記

今年6月の水防法改正により『要配慮者利用施設における避難確保計画の策定・計画に基づく避難訓練の実施』が義務化されるなど、住民への的確な水害リスク情報の周知等が今まで以上に求められます。そのような中、九州北部豪雨や秋田県を襲った豪雨災害など、水害は更に局地化・集中化・激甚化しており、全国何処で水害が起きてもおかしくない状況になっています。

羽越水害から50年を節目とした「最上川防災フェア」を8月26日にシエルターなんようホールで開催。改めて水害への備えについて考えるキッカケになることを望みます。